

ALLEN&HEATH



サーフェイス スタートガイド

C1500, C2500, C3500

ⓘ 始める前に最新のdLiveファームウェアと情報を確認して下さい：
www.allen-heath.com

メーカー保証期間は1年間とします。

Allen & Heath は、材料および製造上の欠陥に対して、オリジナルパッケージ（Allen & Heath 製品）に含まれる Allen & Heath - ブランドのハードウェア製品および付属品を、Allen & Heath のユーザーマニュアル、技術仕様およびその他の Allen & Heath 製品に従って使用された場合、エンドユーザーである購入者（「保証期間」）によって、最初の購入日から1年間の期間を定めガイドラインを公表しました。

パッケージ化され Allen & Heath ハードウェアと共に販売された場合でも、この保証は任意 Allen & Heath ブランドのハードウェア製品または任意のソフトウェアには適用されません。

ソフトウェア（以下「EULA」）の使用に関して、あなたの権利の詳細については、ソフトウェアに付随する使用許諾契約書を参照してください。

EULA、保証ポリシーおよびその他の有用な情報の詳細については、ALLEN&HEATH のウェブサイト上で見ることができます：

www.allen-heath.com/legal

証期間の下での修理・交換は、保証期間の延長または更新の権利は提供されません。この保証期間の下での製品の修理または直接交換は、機能的に同等のサービス交換ユニットで行われるかもしれません。

この保証は譲渡することができません。この保証は、購入者の唯一かつ独占的な賠償となり、Allen & Heath もその承認されたサービスセンターのいずれも、いかなる偶発的または間接的損害、またはこの製品のいかなる明示的または黙示的な保証の違反に対する責任を負うものではありません。

保証条件

機器は、意図または偶発的な不正使用、不履行、またはユーザーガイドやサービスマニュアルに記載されている内容、または Allen & Heath により承認された内容以外の変更を対象としていません。

任意の必要な調整、変更、修理は、認可された Allen & Heath の販売代理店または代理人によって行われます。

欠陥のあるユニットは、購入証明書で認可された Allen & Heath 代理店またはエージェントに運賃前払いで購入場所に返却されます。出荷前に販売代理店またはエージェントと話し合ってください。返却されるユニットは、輸送の損傷を避けるために、オリジナルのカートンに梱包する必要があります。

免責事項：Allen & Heath はどちらか修理または交換されている製品のいずれかの保存 / 保存されたデータの損失に対する責任を負いません。

追加の保証については、お使いの Allen & Heath 販売代理店またはエージェントにお問い合わせください。さらなる情報が必要な場合は Allen & Heath 社にお問い合わせください

Allen & Heath により承認されない機器の変更や修正は、製品のコンプライアンスとそれを操作するためのユーザーの権限が無効になることがあります。



dLive products comply with the European Electromagnetic Compatibility directive 2014/30/EU and the European Low Voltage directive 2014/35/EU.

Any changes or modifications to the product not approved by Allen & Heath could void the compliance of the product and therefore the user's authority to operate it.

dLive C Surface Getting Started Guide

Copyright © 2016 Allen & Heath. All rights reserved.

ALLEN & HEATH

Allen & Heath Limited, Kernick Industrial Estate, Penryn, Cornwall, TR10 9LU, UK

<http://www.allen-heath.com>

重要 - 使用する前に、これらの注意事項をお読みください

安全についての案内

開始する前に、機器に付属の用紙に印刷された**重要な安全上の注意**をお読みください。オペレータ、技術者とパフォーマーの身の安全を確保するために、すべての指示に従い、シート上や機器パネルに記載されたすべての警告をお読みください。

システム動作ファームウェア

dLive Surfaceの機能は、それを実行するファームウェア（オペレーティングソフトウェア）によって決まります。ファームウェアは、新しい機能が追加され改良が加えられたときに定期的に更新されます。

① dLiveファームウェアの最新バージョンは、www.allen-heath.comで確認してください。

ソフトウェア使用許諾契約書

このAllen & Heath製品とソフトウェアを用いて、あなたは関連した**エンドユーザー・ライセンス契約**（EULA）の期間に従うことに同意します。そして、そのコピーは以下で見つけることができます：
www.allen-heath.com/legal。
ソフトウェアのインストール、コピー、または使用によりEULAの条件に従うことに同意するものとします。

さらに詳しい情報

詳細情報、知識ベースおよび技術サポートについては、[Allen & HeathのWebサイト](http://www.allen-heath.com)を参照してください。dLiveセットアップおよびミキシング機能の詳細については、dLiveファームウェアリファレンスガイドを参照してください：www.allen-heath.com

① 本スタートガイドの最新バージョンを確認してください。

Allen & Heathデジタルコミュニティに参加して、他のdLiveユーザーと知識や情報を共有することもできます。

一般的注意

- 液体やほこりによる損傷から機器を保護してください。フェーダースロットに入るほこりや小さなゴミを避けてください。長期間使用しないときはミキサーにカバーかけてください。
- 装置が氷点下に保たれる場合は、会場で使用する前に、常温に達する時間をおいてください。推奨動作温度は0~35°Cです。
- 極端に暑い場所や直射日光の当たる場所で機器を使用しないでください。ミキサーとラック換気スロットが塞がれないよう、機器の周囲に十分な空気が行きわたることを確認してください。
- 柔らかいブラシや乾いた柔らかい布でサーフェイスを清掃してください。化学薬品、研磨剤や溶剤の使用は避けてください。
- サービスは認可されたAllen & Heathのエージェントにより行われることをお勧めします。お近くの販売代理店の連絡先の詳細は、Allen & Heathのウェブサイトに掲載されています。Allen & Heathは未認可の担当者によるメンテナンス、修理、修正によって生じた損害について責任を負いません。
- コントロール面と外装への損傷が無いようにしてください。ムービングフェーダーの動きの妨げになるので、コントロールサーフェイスの上に重いものを置かないでください。タッチスクリーンの表面を尖ったもの、または乱暴に扱う、振動等で傷つけないようにしてください。

製品登録

製品登録：www.allen-heath.com/register

梱包製品

以下の梱包内容を確認してください。

- dLive Surface
- スタートガイド AP9899
- セーフティシート
- IECコード
- ダストカバー

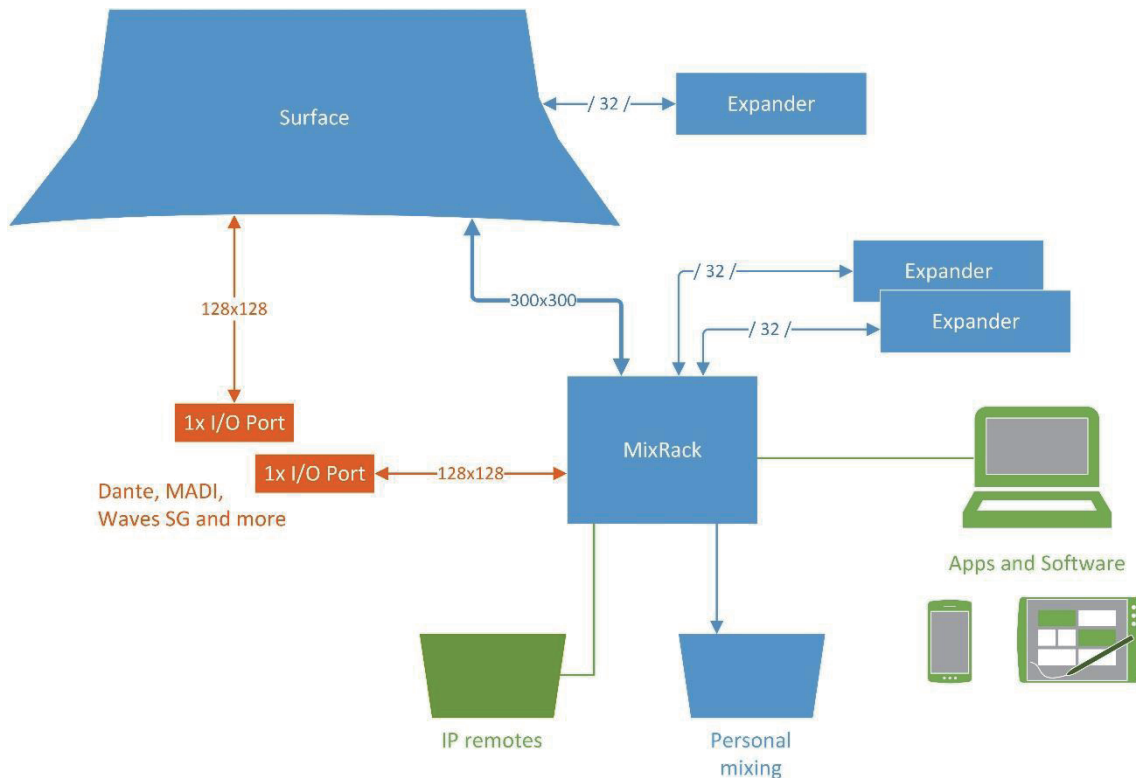
Contents

重要事項	3
梱包製品	4
目次	4
1. 概要	5
1.1 dLive サーフェイス	5
2. リアパネル	7
3. フロントパネル	9
3.1 Harmony UI – プロセッシング画面	11
3.2 Harmony UI – システム画面	12
3.3 フェーダーストリップ	13
3.4 Mixを使用する	14
4. 接続と電源の入れ方	15
4.1 MixRack との接続	15
4.2 テンプレートショーのリコール	15
4.3 エクスパンダー接続	15
4.4 ラップトップまたはワイヤレスルータ接続	16
5. 寸法	17
6. テクニカルスペック	18

1. 概要

dLive は、すべてのライブサウンドに特化した柔軟なソリューションを提供する分散型デジタルミキシングシステムです。ミックスエンジンをコントロールサーフェイスから切り離し、必要な場所にオーディオと処理を施し、多数のコントロールとオーディオネットワークの可能性を提供します。dLive の詳細については、Allen & Heath の Web サイトをご覧ください。

ミックスラックは、dLive システムの核心です、オーディオ I/O、コントロール、オーディオネットワークポートを備えた XCVI プロセッシングコアを内蔵しています。サーフェイスはミックスラック用のネットワークコントローラであり、内蔵のオーディオ I/O およびオーディオネットワークポートが追加されています。I/O 拡張用に、DX エクスパンダーを追加することができます。

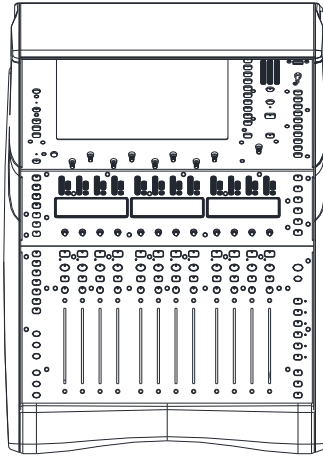


1.1 dLiveサーフェイス

dLive のサーフェイスには 3 種類のサイズがあります。C1500、C2500、C3500 は同じ I/O を備えており、フェーダーとタッチスクリーンの数だけが異なります。S3000、S5000、S7000 は、I/O、I/O ポートが増加し、リダンダント電源、デュアルリダンダント、gigaACE および DX 接続を提供します。詳細については、「Getting Started Guide AP9899」を参照してください。

dLive サーフェイスの特徴と概要：

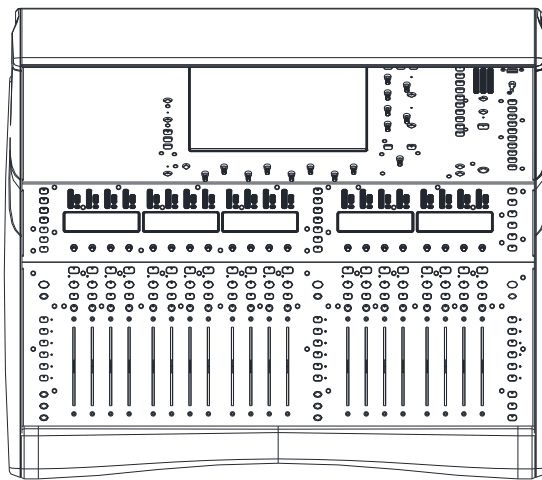
- レイアウトはすべてアサイン可能
- C1500 と C2500 には 1 つ、C3500 には 2 つの 12 インチのタッチスクリーン
- ジェスチャーコントロール - タッチスクリーン操作はピンチ、スワイプ、ドラッグ & ドロップ
- シーン、メーター、FX などの設定可能な操作エリア
- アサイン可能な 19 個のソフトキー (S クラスは 26 個)
- エンジニアのウェッジおよび IEM フェーダストリップ
- 包括的なマルチポイントメーターリング
- 直射日光下でも明るい画面表示
- USB でのステレオ録音および再生



C1500

12 faders, 6 layers = 72 strips

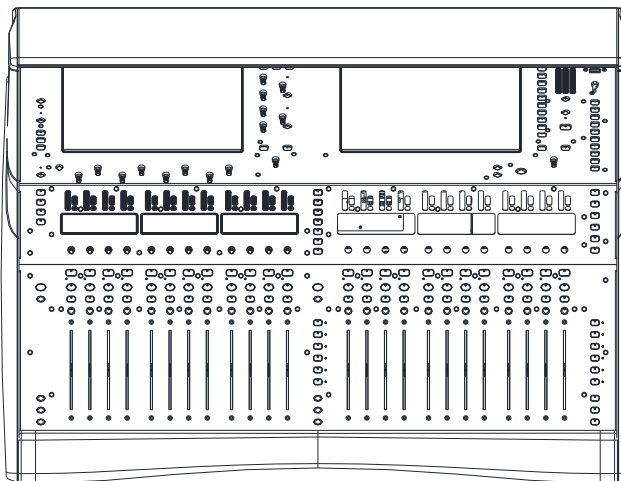
Single screen



C2500

20 faders, 6 layers = 120 strips

Single screen

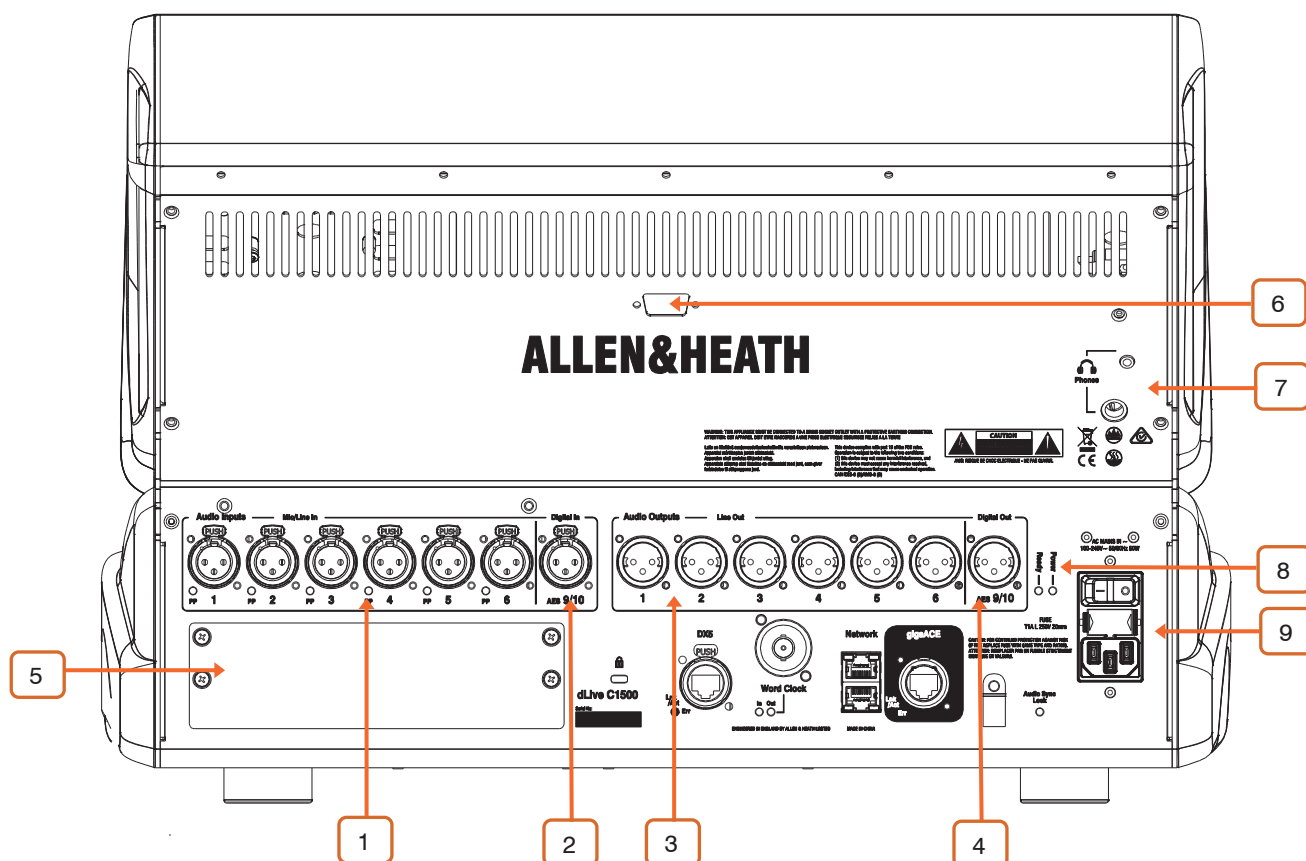


C3500

24 faders, 6 layers = 144 strips

Twin screen

2. リアパネル



- 1 **Mic/Line inputs** – マイク / ライン入力 – 6 つのバランスまたはアンバランス型のマイク / ライン入力用のリコール可能なプリアンプです。ゲイン、Pad、および 48V ファンタム電源はプリアンプ内で制御されます。

内部か外部からのどちらかのファンタム電源がソケットで検知されると PP 表示ランプが点灯します。

I/O または **Processing/Preamp** スクリーンで、任意の入力チャンネルにパッチできます。

- 2 **Digital inputs** – デジタル入カーステレオ AES3 入力 (32kHz – 96kHz サンプリングレート)、サンプルレートコンバーターはバイパス可能です。

I/O または **Processing/Preamp** スクリーンで、任意の入力チャンネルにパッチできます。

- 3 **Line outputs** – ライン出力 – 6 つのバランス型 XLR ライン出力です。標準レベルは +4dBu。出力は電源投入 / 切断時のノイズ防止のため、リレーで保護されています。

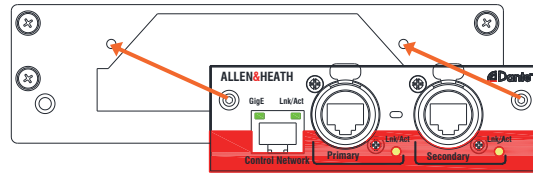
信号は I/O スクリーンを使用して任意の出力ソケットにパッチできます。

- 4 **Digital outputs** – デジタル出カーステレオ AES3 出力 (48kHz or 96kHz 切替可能)。

信号は I/O スクリーンを使用して任意の出力ソケットにパッチできます。

- 5 **I/O Port** – I/P ポート – 128 x 128 チャンネルで、アサイン可能な 2 つのオーディオインタフェースポート。システム拡張、デジタルマイクスプリット、録音、およびオーディオネットワーク用にオプションカードが利用可能です。利用可能なオプションカードのリストに関しては、www.allen-heath.com をご覧ください。

- ① iLive/GLD オプションカード (M-Dante、M-Waves、M-ES-V2、M-ACE、M-MADI) は、M-DL-ADAPT「レターボックス」アダプタを併用すると、dLive で使用可能です。これにより、内蔵型サンプルレートコンバーターで 64 x 64 48kHz インタフェースが得られます。



信号は I/O スクリーンを使用して任意の I/O ポートにパッチできます。

- 6 **Screen Out** - 画面出力-外部モニター接続用 VGA ポート。タッチスクリーンのどちらかをモニターへ出力することができます。Surface / Screen 画面で設定します。

① 外付けタッチスクリーンはサポートされていません。

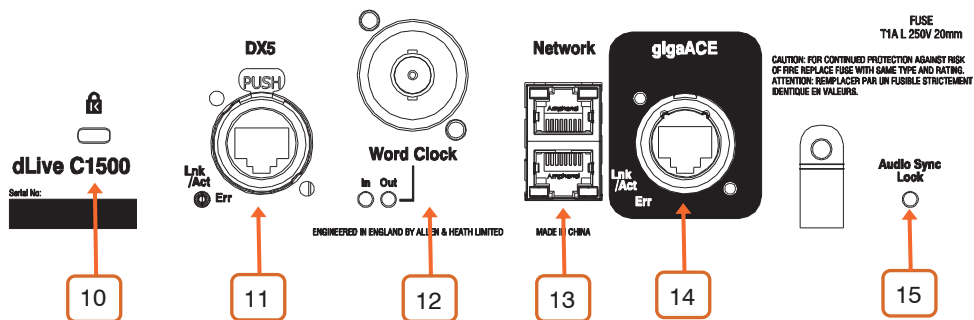
- 7 **Phones** (C1500のみ) - 標準の 1/4 インチおよび 1/8 インチジャック・ソケット、その他のソケットは肘掛の下にあります。

- 8 **Status indicators** - ステータスインジケータ-電源オン表示インジケータ。Ready 表示ランプは、電源オン後、出力ソケットにオーディオ出力が可能となった時点で点灯します。

- 9 **Power Supply** - IEC 主電源ソケット、フューズとオン/オフスイッチ

① パネルに記載の安全についての警告にご注意ください。

メインケーブルを固定するためにプラスチックの P クリップケーブルクランプが用意されています。トルクス T20 ドライバーを使用して、ケーブルの周りを締め付けます。



- 10 **Kensington Lock** - ケンジントン盗難防止装置取り付け用のスロット

- 11 **DX link** - DX リンク-ファーストイーサネットを介して DX エキスパンダを接続するためのイーサコンポート (IEEE 802.3 レイヤー 2 準拠)。Cat5e (またはそれ以上) のケーブル単線で 96kHz のオーディオ、32 x 32 チャンネルを伝送し制御します。

DX エキスパンダの入出力信号を接続するには I/O 画面を使用します。

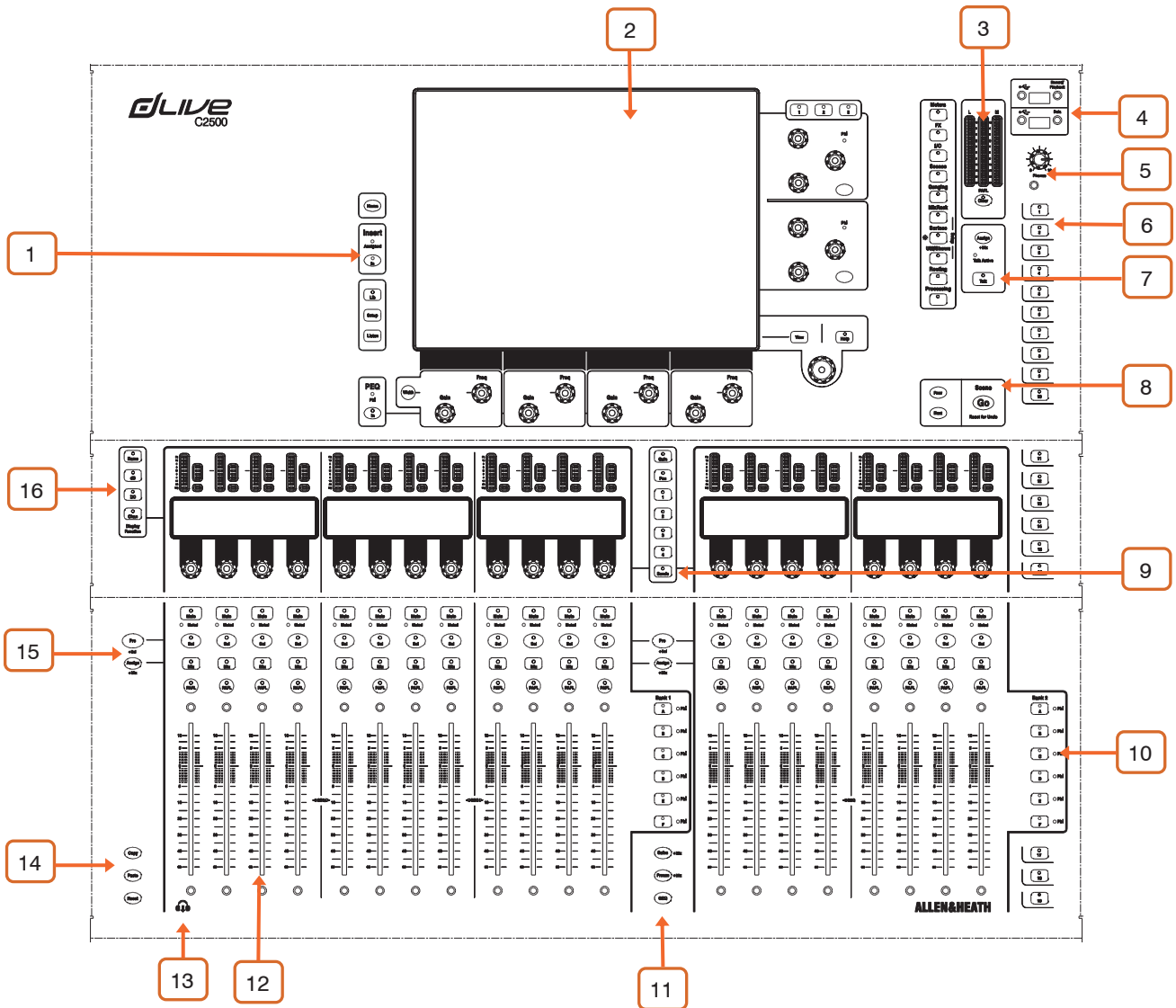
- 12 **Word Clock I/O** - ワードクロック I/O-外部オーディオクロックにより同期する、または他のデバイスにクロックを提供するための BNC コネクタです。

- 13 **Network** - ネットワーク-2 つの RJ45 ギガビットイーサポート。dLive Editor または iOS アプリで使用する PC またはワイヤレスルーターを接続してください。ネットワーク上のすべてのデバイスは互換性のある IP アドレスを持っていないとなりません。

- 14 **gigaACE link** - ギガ ACE リンク-ギガビットイーサネットによる MixRack から Surface へのリンク (IEEE 802.3 レイヤー 2 準拠)。Cat5e (またはそれ以上) のケーブル単線で 96kHz のオーディオと制御信号を双方向に伝えます。

- 15 **Audio Sync Locked** - 有効なクロックソースを示します。

3. フロントパネル



1 **Channel Processing** – チャンネルプロセッシングアサインされた入力やミックスの設定はストリップの **Sel** キーを押してください。詳細については 3.1 Harmony UI をご覧ください。

2 **Touchscreen** – タッチスクリーンジェスチャーコントロールで日中でも明るい 1 つまたは 2 つのタッチスクリーン。詳細については 3.1 Harmony UI をご覧ください。

3 **Main / PAFL meters** – PAFL アクティブインジケータ付き LCR メーター。有効な PAFL をキャンセルするには、**PAFL Clear** を押します。

4 **USB ports** – 上段のポートはステレオ WAV ファイルの録音と再生専用です。下段のポートは、ショーファイル、ライブラリー、イベントログ、およびファームウェア更新のデータ転送用です。

5 **Phones** – ヘッドフォン出力用アナログボリュームコントロール

6 **SoftKeys** – ソフトキー – 19 個のユーザーアサイン可能なボタンがあります。Surface / Control / SoftKeys 画面で設定します。

7

Talkback – トークバック – ラッチまたは、モーメンタリ Talk キーを押して Talk を有効にします。Assign キーを押したまま 任意のマスター **Mix** を押し設定します。

8

Scene navigation – シーンナビゲーション – **Go** を押しシステム画面の右上に示されている次のシーンをリコールします。この Scene は Scenes メニューと **Scenes widget** シーン操作で緑色に強調されます。**Prev** と **Next** キーで前後の Scene をリコールすることができます。

誤ってリコールし前回の設定の復元するには、Reset を押したまま **Go** を押します。

9

Strip rotary mode – ストリップロータリーモード – フェーダーストリップロータリーエンコーダーの機能を選択します。フェーダーストリップのロータリーは、プリアンプのゲインパン、有効なミックスへのセンド、およびアサイン可能な 4 つの機能をコントロールできます。**Surface / Control / Preferences** 画面から設定可能です。LED の色は、有効なミックスに一致し、ゲインは赤色、パッドは黄色、センドモードのときは有効なミックスの色に従います。

センド機能はセンドレベルのコントロールをストリップロータリーの有効なミックスに送ります。フェーダーはチャンネルレベルをメインミックスに制御します。つまり、「sends on faders」を一時的に停止します。

10

Layers – レイヤー – 各バンクごと 6 つのレイヤーのフェーダーストリップの操作が可能です。赤色のピークインジケータは、レイヤーのいずれかのチャンネルが 5dB 以内のクリップ圏内の場合に点灯します。レイヤー全体を通して信号の有無を確認できます。

バンクは、**Surface / Control / Preferences** 画面からリンクすることができます。レイヤーキーは、リンクされたすべてのバンクに影響します。たとえば、レイヤーを変更するとき、2 つのバンク間のすべての入力ストリップを「同期」させておくことができます。

11

Safes – セーフキーを押したまま、ストリップの **Mix** キーを押し、シーンリコールからチャンネルセールを設定します。選択したパラメータのみをセーフするには、**Scenes / Scene Safes** 画面を使用します。

Freeze in Layers – レイヤーの固定 – Freeze キーを押したまま、ストリップの **Mix** キーを押し、すべてのレイヤーのチャンネルをロックします。

GEQ on Faders – フェーダー上で選択されているミックスの GEQ を表示します。ボタンを押し周波数レンジをトグルで切り替えます。ディスプレイに周波数値を表示しメーターは RTA でそれぞれの周波数バンドのピークを表示します。これはモニターや周波数トラブルを解決するのに有効です。

ミックスマスターフェーダーは、このモードの時右側に表示されます。

12

Fader Strips – フェーダーストリップ – インพุットチャンネル、FX リターン、ミックスマスター、DCA、エンジニアのウェッジ / IEM、MIDI を制御します。フェーダーストリップの詳細は下記をご覧ください。

ストリップのレイアウトは、ユーザーアサインが可能で、シーンに保存できます。**Surface / Control / Strip Assign** 画面でストリップのレイアウトを編集します。

13

Phones – 肘掛下に 1/4" と 1/8" ジャックが装備されています。

14

Copy – Copy キーを押したまま：

- ・ チャンネル設定をコピーしたいチャンネルの **Sel** キーを押します。
- ・ ミックスアサインとセンドレベルをコピーしたいチャンネルの **Mix** キーを押します。
- ・ タッチスクリーン上の各ブロックがハイライトされた部分は各設定をコピーします。

Paste – ペーストキーを押したまま、**Sel** キー、**Mix** キーまたは、タッチスクリーンのハイライトされた部分を押しコピーされた設定をペーストします。

Reset – リセットキーを押したまま **Sel** キー、**Mix** キーまたは、タッチスクリーンのハイライトされた部分を押し工場出荷時の設定値にリセットします。

リセットキーを押したまま、フェーダーを触ると素早く 0dB または off に設定できます。

- 15 **Assign** – アサインキーを押したままストリップの **Mix** キーを押すとアサインされている Mix の on/off を切り替える事ができます。

Pre/Post – キーを押したままストリップの **Sel** キーを押し、有効な Mix へのセンドを pre/post に切り替える事ができます。

すべてのチャンネルの on/off または、pre/post を切り替えるにはマスターの **Mix** または、**Sel** を押します。

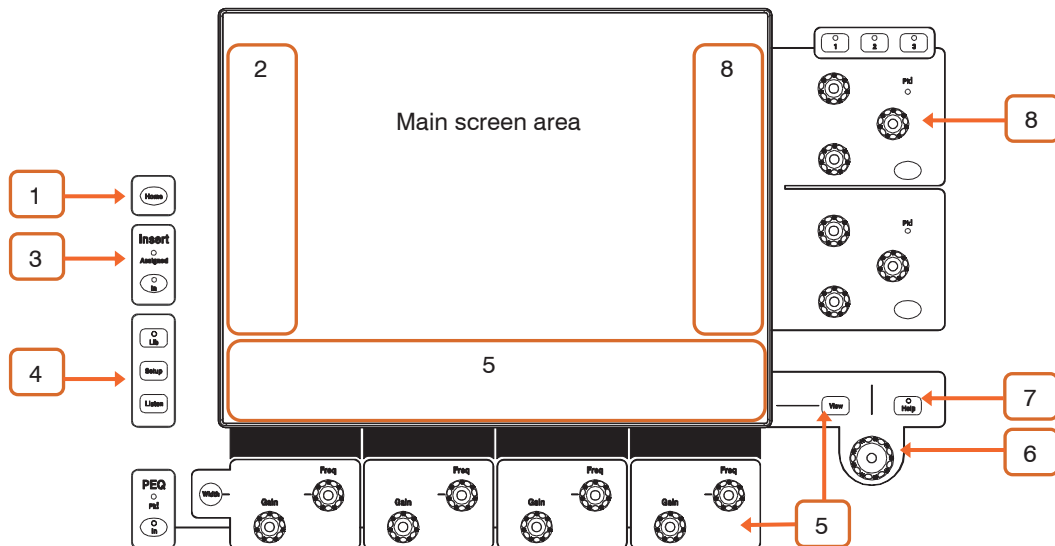
選択されたチャンネルまたはミックスのアサインと Pre/Post 設定は、**Routing** 画面でも設定可能です。

- 16 **LCD Display mode** – LCD 画面に表示される情報を選択します。詳細については下記のフェーダーストリップを参照してください。

3.1 Harmony UI – プロセッシング画面

C3500 には 2 つの画面があります。左側の画面はチャンネルプロセッシング専用で、右側の画面はステータス、システム設定、メモリー管理メニューなどを表示します。C1500 と C2500 には、両方の機能を組み込む 1 つの画面があります。

dLive は、直感的かつ迅速な操作のために色分けされた一連の「ラップアラウンド」コントローとタッチスクリーンを統合します。画面の専用部分には、対応するコントロールの数値と状態が表示されます。いくつかは設定可能またはユーザー設定が可能です（操作エリア）。これらの部分のいずれかをタップすると、メイン画面に関連するタブが開きます。



- 1 **Home** – サーフェイスのホーム画面に戻ります。ホームはデフォルトの有効なレイヤー、スクリーンモード、有効なミックス、ストリップロータリーモード、チャンネルLCD画面を表示します。

① ホームは、チャンネルプロセッシング、ストリップレイアウト、イルミネーション、またはシーンに保存されているその他の設定には影響しません。

- 2 **Preamp and Filters** – チャンネルプリアンプ、フィルター専用画面です。

- 3 **Insert** – インサート内蔵スイッチとアサインインジケータ。チャンネルインサートがアサインされている時にインジケータが点灯します。

- 4 **Lib** – ライブラリーフォーカスしているチャンネルまたは処理ブロックのプリセットライブラリーにアクセスするときに押します。ポップアップメニューでは、ライブラリーの呼び出し、保存、上書き、または削除ができます。Lib をもう一度押して終了します。

Setup – 画面のハイライト部分を押したままタップし設定します。例えば、操作エリアをタッチして、機能、ビュー、またはコントロールを設定します。メイン画面をタッチすると、表示されているオプションにさらにアクセスできます。

Listen – 選択されたチャンネルのポイントを聴くには、Listen を押したまま画面のハイライト部分をタップします。信号は一時的に PAFL バスとメーターを書替えます。

- 5 **PEQ** – スイッチには、パラメトリック EQ の 4 バンドのピークインジケーターと帯域、周波数、ゲインコントロールがあります。**Width** を押したまま周波数を回して帯域幅を調整してください。

画面の専用エリアには、PEQ パラメーターおよび曲線が 4 バンドまたはフルレンジごとに表示されます。このエリアでスクロール可能なメーターブリッジなどの他の機能も設定できます。セットアップを押しながらこのエリアをタッチし設定します。表示されたビューを切り替えるには、View を押します。

- 6 **Touch & Turn** – メイン画面でパラメーターまたは設定をタッチし、ロータリーコントロールでその数値を調整します。

- 7 **Help** – 有効な画面の簡単な説明はヘルプキーを押してください。

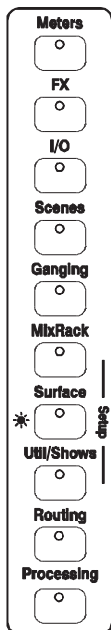
- 8 **Soft Rotaries (C1500以外)** – 3 つのレイヤーに渡り、アサイン可能な 3 個のローターブロックが 2 つあります。各ブロックには、独自の内蔵スイッチとピークインジケーターがあります。

画面の専用エリアには、アサインされた利用可能なコントロールとサムネイルインジケーターのパラメーターが表示されます。**セットアップ**を押しながらこのエリアをタッチして設定します。ロータリーの上部にあるキーを押すか、操作エリア内をスワイプして 3 つのレイヤーを切り替えることができます。

- ① ソフト・ロータリーはチャンネル選択、有効なミックス、または特定のチャンネルロックを設定できます。

3.2 スクリーンモード

スクリーンモードのボタンはメイン画面のメニューを選択します。



Meters – 入力メーター、FX メーター、ミックスメーター、RTA、スペクトログラム、および 4 つのカスタマイズ可能なメータービューへのアクセスができます。

FX – 16 台の RackFX ユニットを表示、ロード、セットアップします。バックパネルビューでは、各ユニットをインサートまたはセンド/リターンにパッチすることができます。

I/O – クロスポイントをタップしてシステムの入出力をパッチします。

Scenes – シーンマネージャ、キューリスト、シーンセーフにアクセスできます。

Ganging – 最大 16 のギャンググループを作成して、選択したパラメータを複数のチャンネルにリンクします。

MixRack Setup – ミックスバス構成、ステレオ入力設定、ネットワーク設定、ユーザープロファイル、トークバックのアサイン、シグナルジェネレーター、オーディオ同期、および I/O ポートオプションへのアクセス。

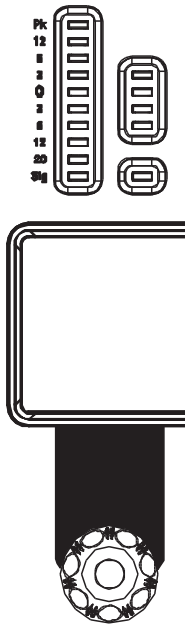
Surface Setup – フェーダストリップのレイアウト、SoftKeys、カスタムロータリー機能のアサイン。サーフェイスの照明調節と USB でのオーディオ再生 / 録音の制御。PAFL オプションとネットワーク設定へのアクセス。

Util/Shows – ショーマネージャー、ライブラリーマネージャー、システム診断、画面とフェーダーの較正、ファームウェアのアップデート、MIDI MMC へのアクセス。

Routing – ルーティング–選択したチャンネルのルーティングとアサインへのアクセス。

Processing – プロセッシング (C1500 と C2500) - 選択したチャンネルのチャンネル処理画面。画面モードが選択されていない場合、**システムステータス**ダッシュボードが表示されます。Power Down をタッチすると、電源を切る前に Surface の電源を安全に切ることができます。

3.3 フェーダーストリップ

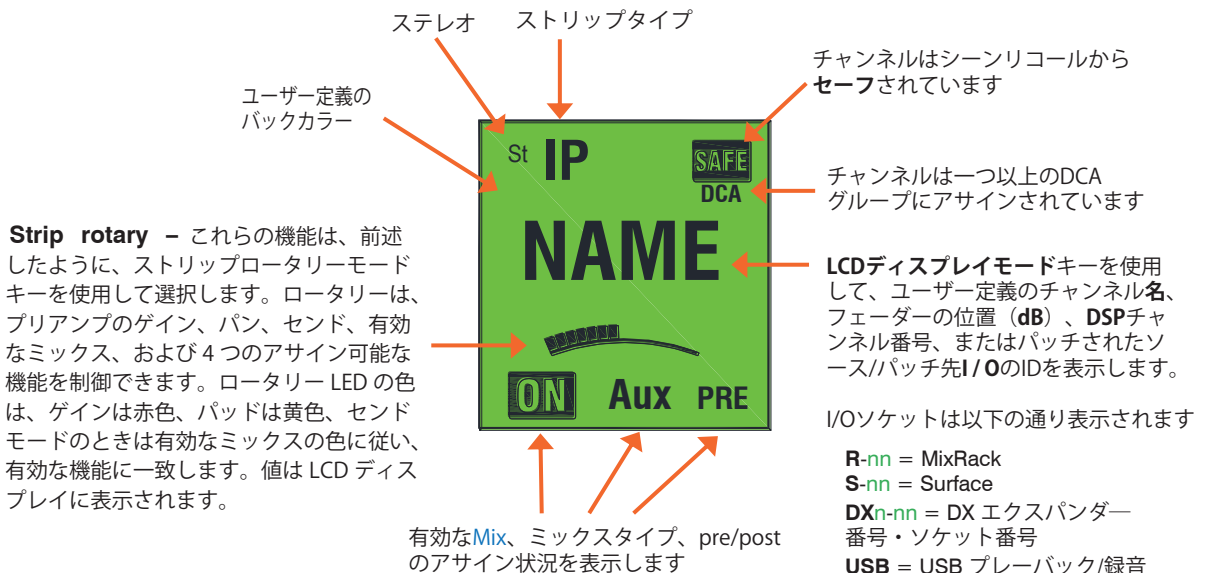


Meter – 10段階で表示される信号メーターと4段階で表示されるゲインリダクションメーターがあります。メーターは有効なチャンネルのオーディオ信号を表示します。

信号が5dBのクリップ範囲内にある場合ピークインジケーターが赤色に点灯します。これは多点検出であり、信号経路の複数の時点でピークを検出します。ピークインジケーターだけが点灯している場合は、処理画面で有効な信号を確認してください。

① 入力チャンネルとミックスマスターのグローバルメーターソースポイントを設定するには、セットアップを押しながら、メイン画面の **Meters / Inputs or Meters / Mix** 画面をタッチします。

LCD Display – チャンネル名、色を含めたチャンネル情報を表示します。



Mute – チャンネル信号をオフにします。メインミックス、プリフェード、ポストフェードセンドに影響します。チャンネルがDCAまたはミュートグループでミュートされているときは、ミュートLEDが点灯します。

Muted



Sel – 処理およびルーティング画面で使用するチャンネルを選択します。チャンネルストリップコントロールが有効になり、チャンネルの処理が制御されます。

① 現在選択されているチャンネルが処理画面の左上隅に表示されます。



Mix – フェーダーストリップ上（ロータリーがセンドモード時のロータリーストリップ）のチャンネルまたはマスターのセンドレベルとアサインを決めます。使用例については、次の段落を参照してください。

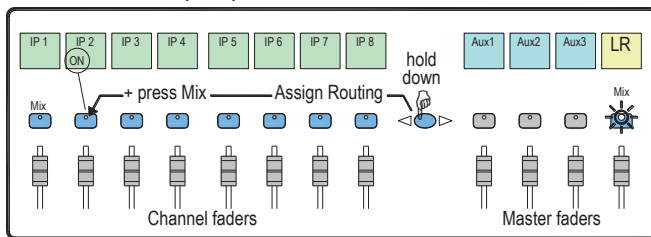
① 現在有効なミックスが処理画面の右上隅に表示されます。有効な **Mix** キーを押してメインミックスに戻ります。



PAFL – ヘッドフォンとモニターシステムにチャンネル信号 PFL（プリフェードリスン）または AFL（アフターフェードリスン）を送信します。PAFLシステムの設定は、**Surface / Audio / PAFL** 画面を使用して設定します。

3.4 Mixを使用する

Normal mix mode (FOH)

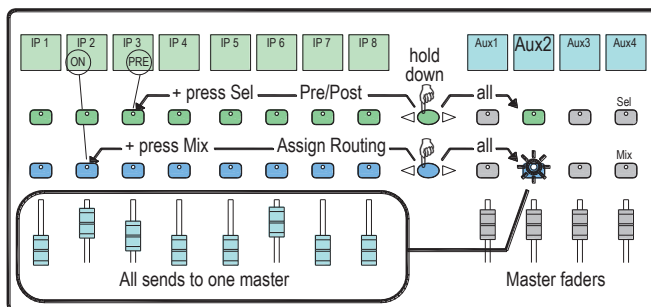


メインミックスマスターストリップ **Mix** キーを押します。

これは通常のみキシングモードです。入力ストリップはチャンネルフェーダーを示します。マスターストリップはマスターミックスフェーダーを表示します。

Assing キーを押しながらチャンネル **Mix** キーを押してメインミックスからアサインまたはアサイン解除します。現在の ON 状態がストリップ LCD の下に表示されます。

Master Mix view



ミックスマスターストリップ **Mix** キーを押します。

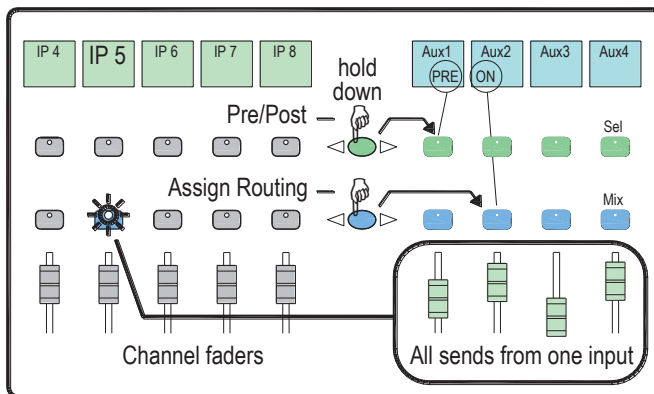
これを使用して Aux と FX のセンドを設定します。入力ストリップは、すべてのセンドレベルを有効なミックスに表示します。マスターストリップはマスターミックスフェーダーを表示します。

Assign キーを押しながらチャンネル **Mix** キーを押して、有効なミックスからアサインまたはアサイン解除します。

Pre / Post キーを押しながらチャンネルの **Sel** キーを押すと、各ソースのプリまたはポストフェーダーが切り替わります。現在の PRE ステータスは、チャンネルストリップ LCD の下部に表示されます。

マスターストリップの **Mix** または **Sel** キーを押すと、すべてのアサインをオンまたはオフにするか、またはすべてのソースをプリまたはポストフェーダーに設定できます。

Channel Mix view



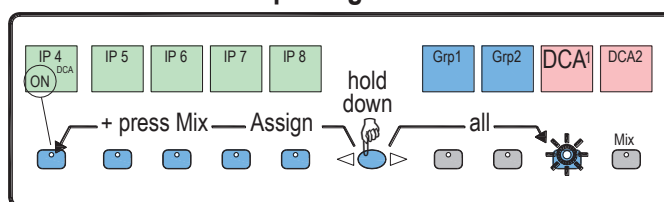
入力チャンネルストリップ **Mix** キーを押します。

これを使用して Aux と FX のセンドを設定します。入力ストリップはチャンネルフェーダーのままです。マスターストリップは、インプットチャンネルからのすべてのセンドを表示します。

Assign キーを押しながらマスター **Mix** キーを押して、各ミックスからのチャンネルをアサインまたはアサイン解除します。

Pre / Post キーを押しながらマスターの **Sel** キーを押して、チャンネルのプリまたはポストフェーダーを各ミックスに切り替えます。現在の PRE 状態がマスターストリップ LCD に表示されます。

DCA and Audio Group assign



グループマスターストリップの **Mix** キーを押します。

これを使用して、オーディオと DCA グループにチャンネルをアサインします。インプットとマスターフェーダーは影響を受けません。

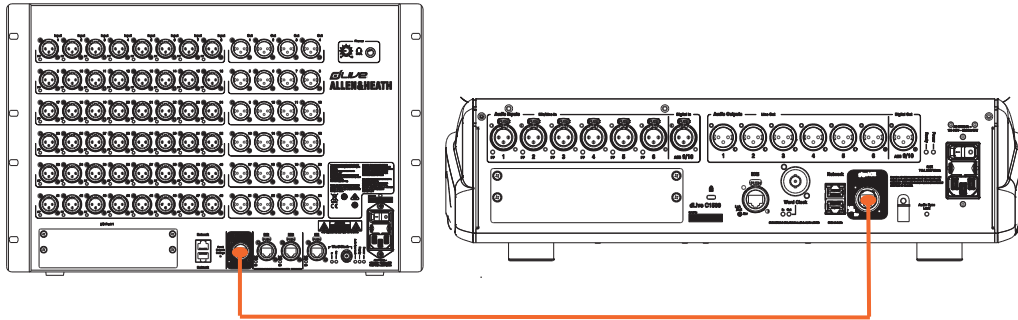
Assing キーを押しながらチャンネル **Mix** キーを押して、グループのチャンネルアサインまたはアサイン解除をします。

4. 接続と電源の入れ方

4.1 MixRackとの接続

dLive Surface と MixRack gigaACE ポート間の接続は、最大 100m までの CAT5e（またはそれ以上の仕様）ケーブルで接続してください。DM32, DM48 または DM64 MixRack は gigaACE ポート A のみを使用してください。

- ① ケーブルの要件、推奨事項、および注文可能な CAT5 ケーブルのリストについては、www.allen-heath.com を参照してください。



最初に MixRack をオンにし、Surface をオンにします。リンクが確立されると、gigaACE Lnk / Err インジケータが一定の速度で点滅します。通信エラーが検出された場合に赤色のインジケータが点灯します。ケーブルが正しく差し込まれていて、故障していないことを確認してください。

サーフェスのコントロールおよびタッチスクリーンが反応するのに約 30 秒かかります。

4.2 テンプレートショーのリコール

dLive は、カスタマイズ可能なコントロールレイアウト、およびソケットパッチを備えたオーディオ構造です。素早くスタートできるように、オーソドックスなコンソールフォーマットのテンプレートショーを提供します。そして使い慣れたアナログコンソールの論理のレイアウト構造になっています。

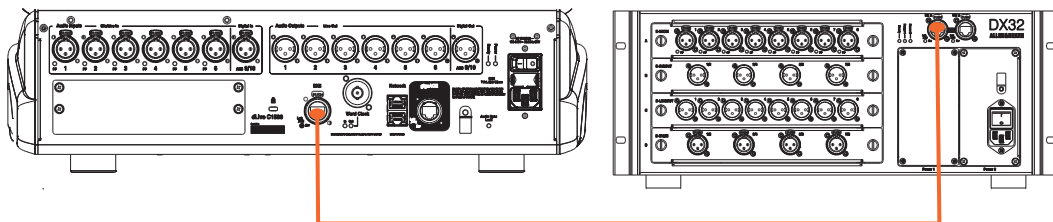
テンプレートショーをロードするには、**Utility / Show Manager** 画面に移動し、使用可能な Template Shows の 1 つを選択し、**Recall** を押してください。

- ① ショーをリコールすると、バス設定、コントロールのレイアウト、現在のパラメーター、すべてのシーンとライブラリーのプリセットを含むすべてのシステム設定が上書きされます。現在の設定を保存する場合は、まずそれらをユーザーショーとして**保存**します。
- ① 詳細については、www.allen-heath.com からダウンロードできる dLive Firmware Reference Guide を参照してください。

4.3 エクスパンダー接続

DX エクスパンダーとサーフェイス DX ポート間の接続は、最大 100m までの CAT5e（またはそれ以上の仕様）ケーブルで接続してください。

- ① ケーブルの要件、推奨事項、および注文可能な CAT5 ケーブルのリストについては、www.allen-heath.com を参照してください。



DX エクスパンダーをオンにします。リンクが確立されると、DX ポートの Lnk / Err インジケータが一定の速度で点滅します。通信エラーが検出された場合に赤色のインジケータが点灯します。ケーブルが正しく差し込まれていて、故障していないことを確認してください。

4.4 ラップトップまたはワイヤレスルーター接続

ラップトップ、ルータ、またはアクセスポイントをいずれかのネットワークポートに接続し、dLive Editor または iOS アプリケーションで使用できます。詳細については、ソフトウェアまたはアプリケーションに付属のリリースノートおよびヘルプファイルをお読みください。

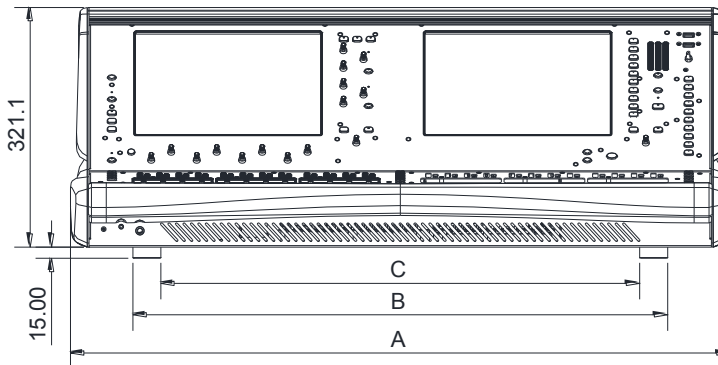
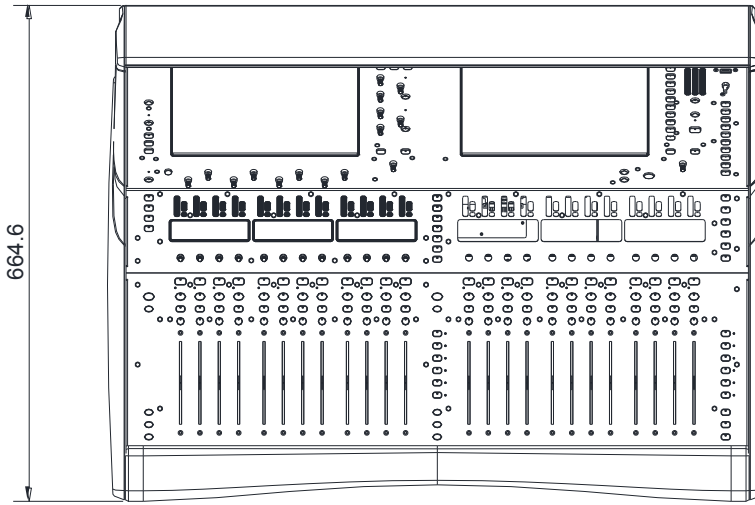
- ① dLive は TCP/IP で通信します。MixRack と Surface を含むネットワーク上のすべてのデバイスには、互換性のある IP アドレスが必要です。出荷時のデフォルトは次のとおりです。

MixRack	192.168.1.70
Surface	192.168.1.71
Subnet Mask	255.255.255.0
Gateway	192.168.1.254

有線でのラップトップ接続の場合は、ラップトップを互換性のあるスタティック IP アドレス (**192.168.1.10** など) に設定します。

ワイヤレス接続の場合は、ルータ/アクセスポイントを互換性のある IP アドレス (192.168.1.254 など) に設定し、DHCP 範囲を (**192.168.1.100~192.168.1.200** など) に設定します。ワイヤレスラップトップまたはモバイルデバイスを DHCP / 「自動的に IP アドレスを取得する」 に設定します。

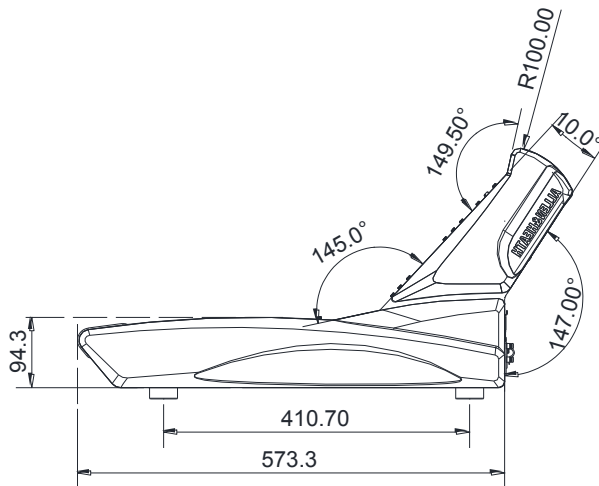
5. 寸法



A
 C1500 - 480.6mm/18.9"
 C2500 - 774mm/30.5"
 C3500 - 885mm/34.8"

B
 C1500 - 377.5mm/14.9"
 C2500 - 657.5mm/25.9"
 C3500 - 717.5mm/28.2"

C
 C1500 - 302.5mm/11.9"
 C2500 - 582.5mm/22.9"
 C3500 - 642.5mm/25.3"



6. テクニカルスペック

Inputs

Mic/Line XLR Inputs	Balanced XLR, +48V phantom power
Mic/Line Preamp	リコール可能
Input Sensitivity	-60 to +15dBu
Analogue Gain	+5 to +60dB, 1dB steps
Pad	-20dB Active PAD
Maximum Input Level	+30dBu (PAD in)
Input Impedance	>4k Ω (Pad out), >10k Ω (Pad in)
Mic EIN	-127dB with 150 Ω source
Phantom Power indication	Per socket, internal or external phantom power sensing, triggered at 24V

Digital Inputs

AES3 2 Ch XLR, 2.5Vpp balanced terminated 110 Ω
SRC range 32k - 192kHz, with bypass option

Outputs

Analogue XLR Outputs

バランス, リレー保護

Output Impedance	<75 Ω
Nominal Output	+4dBu = 0dB meter reading
Maximum Output Level	+22dBu
Residual Output Noise	-92dBu (muted, 20-20kHz)
	-90dBu (muted, 20-40kHz)

Digital Outputs

AES3 2 Ch XLR, 2.5Vpp balanced terminated 110 Ω
 サンプルレート 96kHz, 48kHz, 44.1kHz

System

Measured balanced XLR in to XLR out, 20-20kHz, minimum Gain, Pad out	
Dynamic Range	110dB
System Signal to Noise	-92dB
Frequency Response	20Hz - 30kHz +0/-0.8dB
THD+N (analogue in to out)	0.0015% @ +16dBu output, 1kHz 0dB gain
Headroom	+18dB
Internal operating Level	0dBu
dBFS Alignment	+18dBu = 0dBFS (+22dBu at XLR output)
Meter Calibration	0dB meter = -18dBFS (+4dBu at XLR out)

Meter Peak indication

-3dBFS (+19dBu at XLR out)

Sampling Rate

96kHz +/- 20 PPM

ADC

24-bit Delta-Sigma

DAC

24-bit Delta-Sigma

Latency

0.7 ms (MixRack XLR in to XLR out, Input to Mix)

+ 5 samples, Surface to Mixrack (GigaACE hop)

+ 8 samples, DX32 to Mixrack (DX hop)

Operating Temperature Range

0 deg C to 35 deg C (32 deg F to 95 deg F)

Mains Power

100-240V AC, 50-60Hz, 110W max

USB Audio playback

Mono/stereo .WAV files, 16/24bit, 44.1/48/96kHz

USB Audio recording

Stereo .WAV files, 24bit 96kHz

寸法・重量

	Width x Depth x Height x Weight
C1500	485 x 665 x 325 mm (19"x 26.2"x 12.8") x 17kg (37.5lbs)
C2500	775 x 665 x 325 mm (30.5"x 26.2"x 12.8") x 24.5kg (54lbs)
C3500	885 x 665 x 325 mm (34.8"x 26.2"x 12.8") x 28kg (61.7lbs)

Boxed

	Width x Depth x Height x Weight
C1500	700 x 870 x 480 mm (27.6"x 34.3"x 18.9") x 23.5kg (51.8lbs)
C2500	950 x 870 x 480 mm (37.4"x 34.3"x 18.9") x 33.5kg (73.8lbs)
C3500	1060 x 870 x 480 mm (41.7"x 34.3"x 18.9") x 38kg (83.7lbs)

